

公開講座と情報処理センター

情報処理センター所長 道明 義弘

今年も、情報処理センターでは、奈良市教育委員会の後援をえて、二つの公開講座を開催することができた。一つは、8月23日から8月26日の4日間開講した、「パソコン入門講座～デジカメで撮影した作品をブログで公開してみよう～」であり、もう一つは、「Excel入門講座」である。「Excel入門講座」は、9月29日から10月27日までの毎週土曜日、5回にわたって開講された。この二つの公開講座は、すでに地域に定着しており、毎回、多くの方々に受講を希望して戴いている。今年は、「パソコン入門講座」の受講者は、36名であり、「Excel入門講座」は35名であった。一つの教室での実施を考えると、適切な人数であったのではないかと思考するしだいである。また、テーマと内容についても、時機をえて、関心を持っていただけたようである。

この二つの公開講座を通じて、情報処理センターは地域と結びつき、地域の活動に貢献している。公開講座での最近注目すべき傾向として、50代以上の方々の受講希望者が大幅に増えてきているということがある。「パソコン入門講座」の終了時に実施したアンケート調査の結果において、年代別にみると、次のようになっている。

アンケートに回答していただいた方 28名

年代を回答していただいた方	23名	内訳：50代の方	6名
		60代の方	13名
		70代の方	4名

年代を回答していただいていない方 5名

年代を回答していただいた方が、すべて50代以上の方であるが、受講した方の3分の1が、60代の方であって、受講した方達の中核となっていることがわかる。このことは、「Excel入門講座」においても、同じ様な傾向を示している。

さらに、このアンケートから、50代の方達と、60代の方達、さらに、70代の方達とでは、講座に対する自らの対応の仕方と、希望する講座の内容に微妙な差のあることが明らかになっている。また、テキストについても、「わかりやすい」と「わかりにくいところがある」という回答が拮抗している。このようなアンケートの結果をみる限り、おおむね、情報処理センターの対応には満足していただいているようであり、楽しんで理解を進めていただいたようであるが、今後、さらに高齢者の方達が受講される機会が増えてくるにつれて、「入門講座」も、きめ細かく、ご希望に添いつつ進めていくことが必要になってくるであろう。大学の社会貢献、開かれた大学のありかたも、具体化するにつれて、さらに多様な地域の方達との結びつきと、継続的な地道な取り組みが評価されることになるであろう。このことは、公開講座の実施から覗くことができるこれからの大学のあり方への問いかけでもある。